

金沢大学十全医学会の発展的改革について

金沢大学十全医学会会長
小 泉 晶 一

この度、はからずも金沢大学十全医学会会長にご推挙いただき、これをお引き受けすることになりました。昨今の医学・医療を取り巻く社会情勢の変化はめまぐるしいものがあります。国立大学の法人化、COE、医学部教育プログラムの改編、卒後新臨床研修制度の発足など、明治維新以来の激変で、われわれも未だかつて経験したことのない意識改革を迫られています。金沢大学の生き残りをかけてといたら大袈裟かもしれませんが、金沢大学を支える医学系研究科・医学部(保健学科)・がん研究所の将来ビジョンを考えながら、この機会に、本会の事業を発展的に見直したいと思えます。幸いなことに、本会の財務状況を検討したところ、相当額の会費がこれまで積み立てられており、しかし特別な使用目的もなく眠っていることがわかりましたので、その積極的、かつ有効な活用方法を以下のごとく考えましたので、会員皆様のご評価、ご批判をお願い致します。

1. あり方・目的(理事会、庶務担当)

- ・金沢大学大学院医学系研究科・医学部(保健学科)・がん研の業績を対外的にアピールする広報活動
- ・金沢大学大学院医学系研究科・医学部・がん研の基礎的研究基盤整備の支援のための学術集会と機関誌の充実
- ・金沢大学大学院医学系研究科・医学部・がん研の「ブランド」の創成

今や大学は学生に選ばれる時代です。各研究室は研究しようとする大学院生に、病院は患者さんに、また研修医に選ばれる時代です。とすると、選ばれる側には「ブランド」性の高い商品がいくつか陳列されていなければなりません。COEはその集大成でしょう。本学会は金沢大学の「ブランド」の創成と熟成に寄与したいと思っています。

2. 事業

- ・会誌発行
 - ・学術集会
 - ・大学院医学系研究科・医学部・がん研の各分野、講座が主催する、学会、研究会、シンポジウム、フォーラム、特別講演会の後援
- 各種プログラムに後援として「金沢大学十全医学会」の名前を掲載することにより、金沢大学十全医学会が大学院医学系研究科・医学部・がん研の研究発表の支援母体であることを全国にアピールしたいと思えます。

3. 学会誌の内容の再検討(編集担当)

- ・学位論文
- ・他雑誌に掲載された学位論文の抄録
- ・本学会が後援した学会、研究会、シンポジウム、フォーラム、特別講演の一覧
- ・表紙デザインや内容のレイアウトの刷新

最近、学位論文は英文で世界の一流誌に掲載されることが多くなりました。したがって、本学会誌の年間発行部数を減らさざるをえず、結果として本学会誌は医学系研究科の年報的体裁に変えていくことになるでしょう。それに伴って、表紙デザインや内容のレイアウトを刷新したいと思います。

4. 学術集会の再検討(集会担当)

- ・金沢大学大学院医学系研究科・医学部・がん研の「ブランド」的学術集会(フォーラム、セミナー)にグレードアップする。

序文にも述べましたように、これがこの度の金沢大学十全医学会改革の「目玉」です。個々の研究室のブランドを統合する形で、全国的に注目される「ブランド」的学術集会に、現在の学術集会をグレードアップしたいと思っています。そのために、プログラム委員を専任とし、学術集会のテーマに一貫性、継続性を持たせます。(ただし、本年6月の学術集会は昨年度に決定済ですのでその通り実施します。場所は厚生年金会館で懇親会をおこないます。)

なお、本学術集会には例年著名な講師が招待されていますが参加者が少ないのが残念です。大学院生にとっては非常に有意義な講演であると思えますので、人集めも兼ねて、大学院生の聴講義務化を大学院運営委員会へ提案したいと思います。具体的には4年間で20単位程度を必須とするのはいかがでしょうか。

5. 十全医学賞の創設

グレードの高いものを創設し、末永く「ブランド」性のある賞に育てていきたいと思えます。高安賞が大学院生を対象とするのに対し、十全医学賞は中堅研究者個人を対象とし、応募等によって選考をしっかりとやりたいと思っています。

6. 会計の再検討(会計担当)

冒頭でも述べましたように、幸いなことに、本会の財務状況を検討したところ、相当額の会費がこれまで積み立てられており、しかし特別な使用目的もなく眠っていることがわかりましたので、その積極的、かつ有効な活用方法を上記のごとく提案する次第です。

7. 会員の獲得、増加策

とは申しませんが、本学会の目的を遂行し、発展するためには会員を増加しなければなりません。本学出身のみならず、他大学出身で金沢大学大学院医学系研究科・医学部・がん研を中心に研究活動を展開している先生方や大学院生の金沢大学十全医学会への積極的な入会を押し進めます。

従来、とすると本学会は、日本学術会議へ本学から会員を選出する支援母体としての性格が強かったかと感じておりましたが、この度、日本学術会議会員の選出方法が変わり、選挙運動の必要はなくなりました。これからの金沢大学十全医学会は、純粋にアカデミックな活動に専念し、世界に通用する金沢大学の「ブランド」創成・成熟を支援し、アピールしていきたいと念願しております。